

第37回技能五輪国際大会の記

佐藤浩光選手（新潟）4位敢闘賞入賞



日左連理事・技能五輪国際大会チーフエキスパート
長谷川 哲義・記

閉会式終了後 日本選手団

6月18日（水）～6月25日（水） 第37回技能五輪国際大会（スイス・ザンクトガレン）の開会・閉会式場は市内のスポーツホール、広さ約3,000㎡の体育館、観客席は約3,000人を収容できる施設で行われました。

また、競技会場はオルマ・メッセ市内の東部にあり、広さ38,600㎡（熊本会場は8,000㎡）の広大な施設でした。

選手の宿泊先は湖の近くロール・シャッハという所で、競技場迄専用バスで20分位ですが、私は幸い会場より1分とかからない会場正面入口の真ん前でしたので、身体はすごく楽でした。

今回は合計38職種・585名の世界の若者が参加し、日本は31職種・34名の選手と31名のエキスパートが参加しました。観客数は延べ18万人という盛大な競技の

祭典でした。左官職種は、昨年、熊本大会優勝者で新潟県の（株）佐藤左官工業所所属の佐藤浩光君が出場したわけですが、私は第1陣として6月11日、成田空港第1ターミナル団体待合室にて、技術代表、エキスパート、公式オブサーバー、技術幹事、通訳の計60名で結団式を行い、日左連事務局・伊藤氏の見送りを受け、出発。

選手は6月13日、中央職業能力開発協会にて結団式を行うと共に、厚生労働大臣、次に内閣総理大臣そして東宮御所にて皇太子殿下を表敬訪問し、明治記念館にて選手、役員、オブサーバー、選手同行者と共に日本選手団壮行会を行い、成田ワシントンホテルへ。翌日、成田よりパリ経由チューリッヒへ出発しました。

技能五輪国際大会とは、正式名・国際

職業訓練競技大会といい、1950年にスペイン職業青年団が提唱して隣国ポルトガルの青年団と各々12名の選手で、技能を競ったのが源とされております。日本は'62年（昭和37年）の第11回大会より参加しています。出場選手資格は御存じの通り満22歳以下で、競技時間は22時間です。

6月18日（水）～6月25日（水） 競技課題は参加国がそれぞれ提出した課題案をエキスパート全員で選び、技術委員会が採択するもので、今回の左官職種は初めての試みで、前回のソウル大会の時、私がチーフエキスパートに選出された時の条件の一つとして提案し、事前に公開するというように決定しており、台湾提出の課題に決まっておりましたが、今回、台湾が12月の時点で参加しないという事で、チーフである日本が課題の提出をする事に12月の総会で決定し、年が明けて2月末日迄に提出いたしました。

公開した場合は競技当日に25%～30%の図面の変更を行う事に、規則で決まっ



中央能開での結団式で、川口厚生労働大臣から
激励される日本選手団

ております。

左官はモジュラー方式であるので、その結果を毎日結果表示する44個の大型プラズマディスプレイが設置され、選手、エキスパートが評価項目、スケジュール及び結果をアクセスできるようになっています。

競技場はショップマスターが安全や競技運営についての全権を持っており、全てを相談をする事。競技場に入ることができるのは、エキスパート、公式技術代表及びチームリーダーだけです。それ以外で入場する場合はチーフエキスパートの許可が必要。エキスパートを含めて、

第37回技能五輪国際大会（スイス）左官職種結果

順位	成績	点数	国名	選手名
1	優勝	550	スイス	Bischofberger Remo
2	準優勝	514	ドイツ	Braun Oliver
2	準優勝	513	フランス	Faure Alexander
4	敢闘賞	507	日本	佐藤 浩光
5	敢闘賞	502	オランダ	van der looy Ruud
6		491	アイルランド	Guinan John
7		487	韓国	Yoon Hong Kyu
8		436	フィンランド	Pentikainen Erkka

※ 準優勝が2名のため、3位はなし

競技場内での写真、ビデオの撮影は禁止。通訳者もエキスパートが必要とした時のみしか場内には入れません。エキスパートと自国の選手との会話は原則として禁止されています。

左官職種は役員として第15回、第16回に参加して、第17回にスイスのベルンで日左連技術研究所の松岡氏が出場したのが初めてですが、今迄20名の選手がエントリーして金メダル2、銀メダル1、銅メダル3、敢闘賞2という成績です。

今迄どうしてもヨーロッパ主体の感が強かったものですから、あえて課題を公開し、30%のモジュールを行うという事に私はエキスパートになってから強く望んできて、今回初めてという事もあり色々ありました、公開によってヨーロッパの選手と互角に闘える事がはっきりと解りました。

選手には、自分の熟練度を世界の出場者と比較しながら新しい経験と知識をもとに、効率的に向上させ、やる気と自信を伸ばす機会でもあり、精神面と共に今後の課題にしたらと考えております。

〈スケジュールメモ〉

6月12日(木) 朝4:20分頃、チューリッヒよりホテルへ13:30着。17:30歓迎パーティー会場へ徒歩で15分位にて市中心部にある教会の庭にて開催。途中雷雨に見舞われ全身びしょ濡れになりながらドイツ、オランダのエキスパートと再会の挨拶をしました。

6月13日(金) チーフエキスパートの訓練。まず最初にSARS対策について地元医師による説明。2月28日頃から顕著になってきたが、5月12日以降は沈静化に向かっているとの事。世界的に沈静化の方向であり、あまり神経質になる必要はないだろうとの事。16:30分修了。

だが左官職種のみ補修(30分位)。この訓練の目的は、各エキスパートに指示を出し、選手に対する評価を正しく行うことを保証するのが目的です。

自己テストがあり、チーフエキスパートは一連の質問に答えることにより、自分の知識をテストする。競技規則、職種定義、エキスパートマニュアル等を行う。

午後はフォーム5、5A、6(採点用紙)の扱い方、記入仕様の訓練。

18:00迄ビッシリと勉強勉強で、私より通訳の方が熱心に講義を受けている。

次回、フィンランド大会から最小参加国・12ヶ国となる。それ以下の職種は統廃合の対象となるとのことでした。

6月14日(土) 9:00より12:00迄。昨日に続きエキスパート訓練。競技規則、健康、安全、担当者の一般情報、ICSプログラム訓練、総ての情報、採点等はパソコンにて行い、チーフのアドレスを入力しなければ総ての情報は出てこない仕組み。

12:00より最終討論、質疑応答。12:30訓練終了。初めてのチーフということで、今日迄多くの情報を集めることの大切さ、そして多くの時間を準備に費やしたつもりが、プレッシャーと焦りが出て

きてしまい、気持ちが不安のまま訓練が修了しました。

14:00より左官職種のエキスパート会議。久し振りに逢った人、新しい仲間になった人、この大会が公平である事。前回のようトラブルを起こさない事をお願いして自己紹介に入り、前々回、スイスでの大会で金メダルを取った選手(フランス)が今回エキスパートとして参加しており、スイス、韓国と皆30歳前後の人が多い。初めての図面公開という事で、規則通り30%の図面の変更を行う審議に入るが、やはり多少自国の選手の得意とする個所は変更する事に賛同せず、逆に得意でない個所は図面が壊れるくらいに変更しようとするので、なかなか決定せず、3時間かけても決まらないので明日迄に宿題とする事に決定し、17:30修了。

終了後、前回のエキスパート(ドイツ・オランダ)と共に私のホテル前にてビールを飲みながら明日の打合せ。

6月15日(日) 9:00より、昨日宿題とした図面の30%変更について、各国より提案図面を提出したが、まだ30%変更してないとか、そこは除くと絵にならないとか、なかなか決まらず、日本とドイツは左右の壁を除く事を提案したが、最終的に投票によってオランダ、アイルランドの提案に多数決で決定され、長い数値は±1、短い数値は±0等々を決めながら、チーフエキスパート会議、競技規則、職種定義、安全、健康、公平、透明、品質管理等を報告し審議に入り賛同を得る。

18:00修了。19:00より新潟テクノス

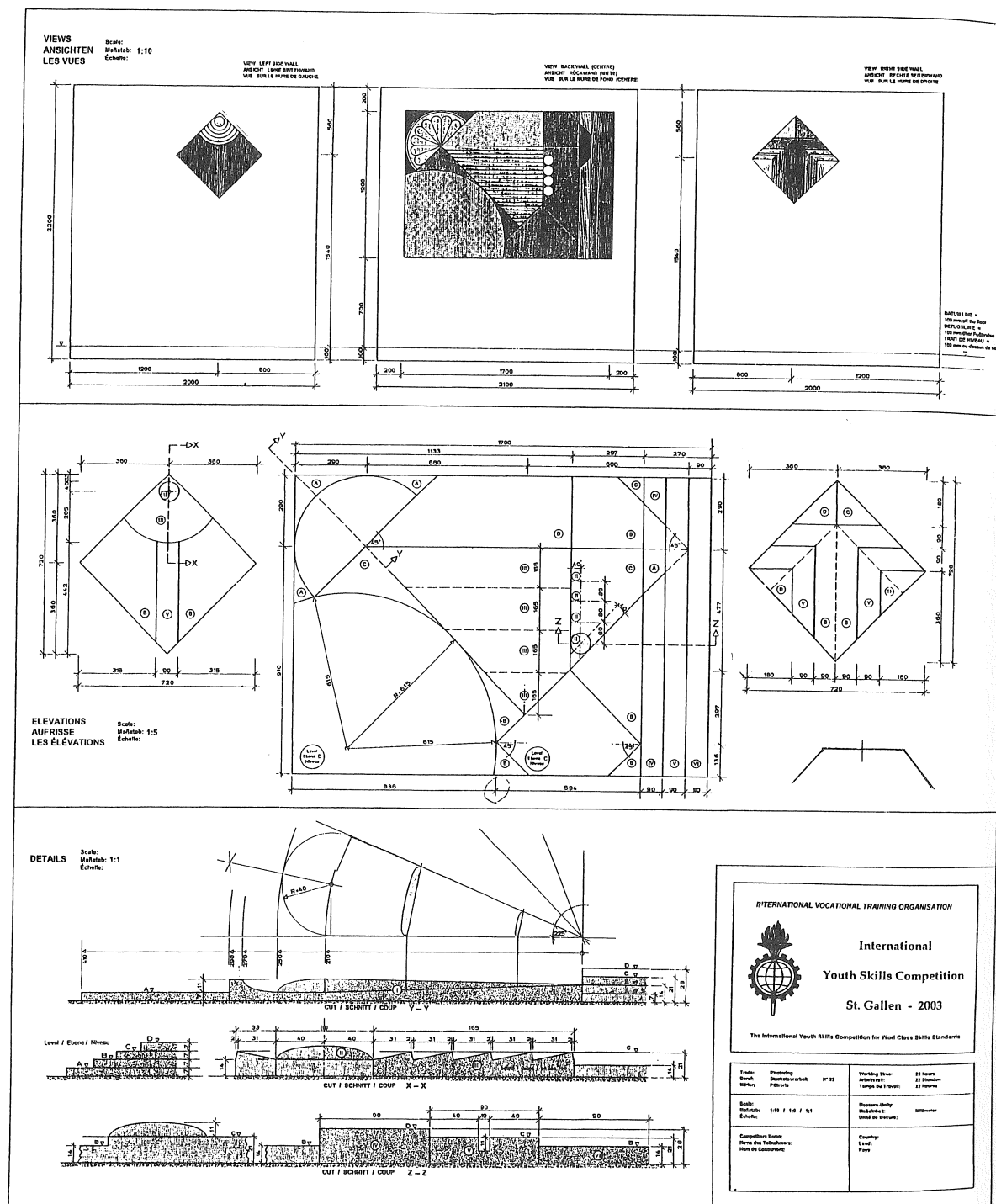
クルの高野先生と図面の変更箇所の説明を私の部屋で打合せ、選手と明日会うとの事、本当に助かります。

6月16日(月) 昨日に続き30%モジュールの図面の清書、副エキスパート他2名にて技術委員会へ。

作業説明、時間割(昼食時のグループ分け)等を決め、エキスパート8人中新しい人が5人もいるので、なかなか事が進まず弱った。

午後13:00に正式図面が届き、採点個所決定に向けて審議に入る。私より古いエキスパートであるドイツ・シュバイツァー氏より説明を求め進行するが、新任のエキスパートより激しい提案が多くあり、ベテラン・ドイツもなかなか先へ進めず、私とオランダ(2回目)と共に若い者と一緒は大変だとこぼしながら進行する。

私も過去を振り返ってみると、この様な激しい訳の解らない提案はした事がなかったもので、反面反省しているところです。明日は、スイスの左官・タイル・レンガ組合の招待遠足との事。我々選手の工具展開日でもあり、不在では困るので、中止か不参加を提案したが、展開時にエキスパートが同席しても選手との会話は一切禁止の為、いても意味がないと多数の意見で明日抽選が出来ないので、フランスの通訳(女性)が代表して抽選を行い決定したが、何か選手がいらないので釈然としない気分。ショップマスターと地元のスイスエキスパート2名に工具展開を託す。



シャトルバスの最終が18:00の為、採点の配点等決定する。17:30終了。18:00新潟県立魚沼テクノスクール・高野先生と夕食を共にしながら選手への伝言、又、依頼等打合せ。先生は役目とはいえ、真似の出来ないくらい選手の為に熱心に質問され、毎日毎日感心します。最終の電車でホテルへ戻られた。

6月17日(火) 工具展開日。何か選手が困っていないか一日中心配しながら招待遠足に参加したが、ただ疲れた一日である。何か地元にしてやられた感じ。

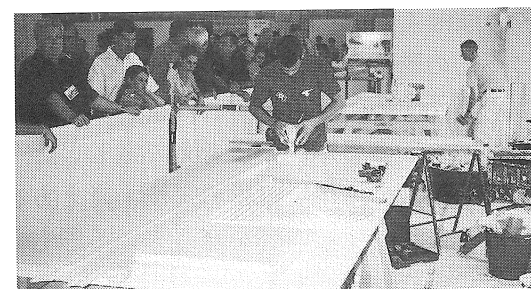
6月18日(水) 17:00より開会式がある為に、9:00~12:00迄デモンストレーション。選手、エキスパート、通訳、ショップマスターの自己紹介に始まり、ショップマスターによる材料の説明、実技の試験塗りは各選手が行う。選手は自分の課題、引き台のチェックに入る。日本選手の引き台にヒビが入っている為に明日までに取り替えておく事。順調に午前中の作業終了。佐藤君は落ち着いて作業をしている。アイルランドの選手の工具の一部がまだ届いていない。エキスパート、選手共不安が募っている様子。17:00より開会式。式の合間を見て高野

先生と打合せ。

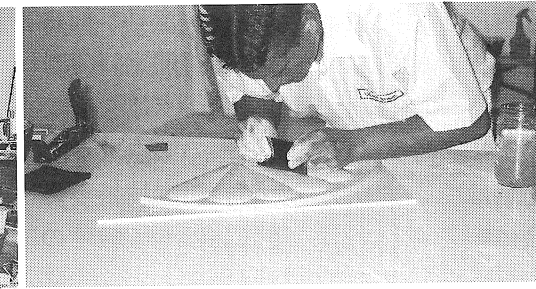
6月19日(木) いよいよ本番スタートである。作業説明、時間割(昼食時のグループ分け)、休憩には自国の選手とエキスパートは同じ時間帯にならない様。9:00~10:00迄図面の解説。1時間後に作業開始。11:00頃日本選手の施工法にクレームがつき、選手には責任はないが日本での訓練過程で図面の公開である以上、施工法は自由であると判断をして作業をした訳だが、各国より原型は当日作ってからという規則を破っているから違反だという。日本はまず定木と型紙を作って来てそれで壁面に寸法を出しているとの事。それが原型を持参したと解釈され、日本はあくまでも原型でない事を強調したが、7対1で認められず、私の責任の大きさに身震いを感じた。

日本の技術代表である職業能力開発総合大学・西澤絃一先生に相談に行く。先生はあの広い会場を汗をかきながら、ありとあらゆる人脈に話を付けて下さり、審議の中に入って色々アドバイスをしていただきました。本当に今思っても感謝しております。

最終的に技術委員会の裁決により原型



手前1位のスイス選手、後方アイルランド



引き型制作中のドイツ選手(2位タイ)

で墨出しをした事と職場を無断で放棄した事も重なり、30点減点という事に決定。選手が昼食近くなって冷静さを取り戻し、自分は「メダルはどうでもよい。今迄死にものぐるいで訓練してきた自分の技術を世界の皆に見せる。そして世界の作品を作りたい」と会場に戻って来てくれました。あれだけショックを受けたにもかかわらず、気持ちの切替の早さ、精神力に驚かされました。私など今だに腹の虫が治まっていない。現代の若者なのか佐藤君の性格には驚かされました。

競技中だが、エキスパート会議で次の課題選定に入る。ドイツ、フィンランド、オランダ、韓国より提出があり、日本は阿食副会長より推薦があった図面を時間がなく未完成のまま参考資料としてデザインだけ公開しておきました。提出国より図面の説明を求め、質議応答をして投票でドイツとアイルランドが選ばれたが、ドイツはスライドによる説明に入り、2回目の投票でドイツに決定。午後、競技は順調に進んでいるかに見えたが、韓国、ドイツ、オランダが日本と同様に持参した定木を使用した事が発覚して再度審議に入る。なかなか意見が前日と同様合わず、日本は作業時間定時で日本の真似をした国は1時間、真似をしない国は2時間、そして日本の減点はなしと話はまとまりかけたが、再度技術委員会に報告をしたが、委員会は他の職種の事もあり時間の延長は認められず、最終的にアイルランドエキスパートの提案で

「日本選手が悪いのではなく、もっとエキスパート全員が勉強すべきで、これはエキスパート全員の責任であるので日本選手の減点を15点にすべきだ」と発言。彼は日本コーチと選手が知恵を絞った工法を賛美してくれました。公平、透明性の大事さを強調した意見を出した事に私はその場で彼に最大の敬意を表した。

審議の結果、減点を15点にするか、20点にするかという事になり、6対2で日本選手の減点が20点に決定。

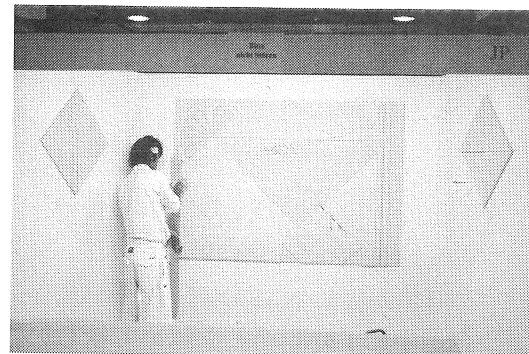
競技終了後、18:00よりモジュール化により始めて初日の第一寸法（壁面に絵での墨出しをした箇所）に審査に入るが、日本選手はあの様な精神的ショックを受けたハンディの中でよく墨出しをそこそこに出してくれた事に驚いています。

〈反省点〉

私は最後に「チーフとして責任を感じていると共に反省する事が多々ある。この課題については公開競技という事で前のスイス大会での雪辱をはらすべく日本のコーチが培ってきたノウハウを発揮して考え出した工法であるが、伝統的な工法に阻まれてしまい、非常に残念でたまりません。

この職種を継続していき、又、参加国を増やすのには何をすればよいか。エキスパート全員が真剣に考えて欲しい。今回も競技の途中で日本の工法、考え方を取り入れ、作業内容を変えている国もある。それは何であろうか！

人間の手作業で水を混ぜてする作業に



佐藤選手のスピードと技術は群を抜いていた

0.01mmとか0.5mmの審査するのでは選手がかなわない。業界のプロでもあり、又、経験者でもあるエキスパートが選手の立場に立たず他国の選手から本人が最大に心にキズを受ける発言をしたり、他国の道具箱に手を触れたり、他国の道具に対してクレームをつけたり、自国の指導方法を新しい感覚で将来をみて指導して欲しい。たくさんのギャラリーの前で技能を披露するという重要な目的と共に、3Kを無くさなければ後継者はついてこない。残土の2ポイントをもっと重く考えて欲しい」と挨拶をして、日本はチーフとしてこの競技がこれ以上トラブルを起こし円滑に行かないと、左官職種がオープン競技（金、銀、銅メダル無し）になってしまう恐れがあり、それでは困るという気持ちが先に立ち率直にペナルティーを受けたが、今後、選手に対して不公平を起こさない様チーフとして願います。

6月20日(金) 日本選手も完全に落ち着きを取り戻しているようで、一安心です。競技中ですが、職種定義の見直し、持参工具の減少等いろいろ意見が出さ



引き型に集中している佐藤選手

れ、ドイツよりトラブルを無くす為に次回から出場参加国総てで旅費のみ、食事と宿泊はドイツ負担で強化訓練をしたいと提案があり、韓国を除いて全員の賛同を得る。

本日、日左連池本会長を始め、新潟左官同業会の古泉会長と新潟県、群馬県の30名近い有志の応援団が来場され、応援団の声援を受け心の落ち着きを取り戻しました。

各国のエキスパート、通訳、ショップマスターを紹介し、面談を行い「左官百選」を渡しました。作業は17:00に修了し、書類整理後、池本会長が今日迄の労をねぎらうという事で通訳と新潟の高野先生、群馬からの野村氏、目崎君と共に歓談致しました。

6月21日(土) 9:00スタート。17:00迄の予定で作業開始。本日は審査も無く、各エキスパートも少しは落ち着いた様子。日本選手も頑張って作業を進めている様子。選手もあの様な状態の中、気持ちを入れ変えて平常心に戻り、頑張っている姿を見て感無量で、反面感謝の気持ちで一杯です。

彼の今後の作業で満点に近い数値を出してくれれば、ペナルティーを受けても表彰台も夢でないような気がする。

新潟県連、青年部有志の方々とは色々話ができませんでした。(色々とチーフとして忙しんでいたかもしれませんが) 応援団の皆様の顔を見て心の安らぎを覚えました。

作業終了後に選手は工具の片付けをし総ての競技が終了した訳だが、各国の選手のうれしげな顔は常にすばらしい。佐藤君も高野先生と互いに肩をたたきながら硬い握手を交わし、競技エリアの中に許可なく入り選手の作品の出来栄を確認しながら記念写真を撮っていました。高野先生には工具展開から競技終了迄、私のホテルへ2泊もしながら、我々より朝早くから夜遅くまで本当にご苦労様です。他の人に真似の出来ない事です。

選手、コーチもスイスは涼しいはずが、毎日130年振りの暑さで大変だった事でしょう。本来であれば競技終了後、夕食後に審査に入る訳ですが、全員が色々の諸問題で疲れているという事で、明日鮮明な頭で審査しようと今日は終了。

又、中央職業能力開発協会、常務理事で今回の副団長を務められた九重達夫氏にはトラブル発生から今日迄、朝からずっと日本選手の所を離れず激励を送りながら見守って下さり感謝しております。西澤先生と共にたいへん心強かったです。

6月22日(日) 今日は最終日なので絶対にトラブルは認めない。そして技術委員よりフランスの通訳が退場させられた

事もあり、通訳の方(通訳がエキスパートよりもですぎた発言をした為)は特に注意をする様朝のチーフ挨拶をしてスタートしたが、ドイツより提案。次回のエキスパートの見習いとしてオブザーバーを採点時同席しても良いか否か。(場外であれば良いと決定)

全選手に1時間延長を認めて欲しい。(日本は大反対) 5:3で否決。

フランスが日本と同じ工法で始めたのでどうするか。(フランス以外全員あきれてしまい、私から将来の為に良く見てエキスパート個人の勉強を必ずする事だと意見を述べ決着。)

日本選手は総て完成し、素晴らしい仕上がりであり、エキスパート全員が審査前にもかかわらず素晴らしい事を認めている。終了後の採点いかんによっては表彰台に?。後は選手の寸法がどれだけ完璧に近いのか、心配になってくると共に何か異様にうれしい気持ちになってきた。

完璧に仕上げたのはスイス、日本だけです。ドイツ、フランスは置引を張ったが、補修が残っている。韓国は置引を張ったが総ての置引が0に近い。残りは未完成である。

国内大会も同様だが、毎回競技終了のホイッスルが鳴った後に選手と触れ合う時間が私は一番好きで、今日迄来た様な気がする。一人一人と握手をする気持ちは良いものです。

選手の成績結果はエキスパートの責任。選手の入賞は選手の努力であると毎回思っており、結果が楽しみです。

6月23日(月) 9:00より審査。まず最初に各選手のエリアNo1~No2、No3~No4、No5~No6、No7~No8に分かれて各2名で掃除から始まる。新しいエキスパートが多い為に審査の方法をミーティングする。

佐藤選手が最後に次回のフィンランド大会ではコーチとして必ず雪辱を晴らす事と将来は長谷川さんみたいになって世界のメンバーと競いたいので頼みますとの心強い言葉を聞き、大変嬉しく、又、たのしく思います。あのショックから立ち直りの早さは本当に素晴らしいと思っております。私には無論異存はありませんので、どうか頑張ってもらいたいと思います。最大の応援はするつもりです。

〈最後に〉

今回も大変財政の遣り繰りの厳しい中、日左連の皆様方に技能五輪国際大会には特段の御理解と御指導を頂き本当にありがとうございました。

選手の強化訓練中には日左連池本会長が直々に新潟県立魚沼テクノスクールまで出かけられ、激励され、技能五輪に日頃から理解のある藤田学校長と歓談され、勝利を約束されました。

又、カナダ大会で金メダルを取った福村君の指導者でもある石川県金沢の原崎勝男氏には、2月15日・16日、5月8日・9日と泊り込みで新潟の強化訓練に熱心に御指導頂きありがとうございました。

そして選手の地元であります上越市の坂田会長、金井事務局長さんをはじめと

した組合員の皆様には色々お世話をかけ、又、散財をかけて本当にありがとうございました。

新潟左官同業会の役員の皆様には、海外より焼石膏を注文され、選手も外国の石膏に戸惑う事なく、作業に入れたかと思えます。何から何まで新潟県連の皆様に対する熱意には敬服致します。

スイス大会に於いては、池本会長をはじめ新潟県連・古泉会長はじめ役員の皆様、そして日左連青年部、愛媛県、群馬県の有志の方々の直接の応援と各県連有志の方々の激励を受け、日本で初めてというチーフエキスパートの任務にプレッシャーと気負いが先に立ち、このような結果に終り、選手本人を初め関係者各位に多大なる御心配をかけ申し訳ありません。重々お詫び申し上げます。

私の勉強不足と言葉の壁に悩まされた1週間でした。課題が日本提出、日本のチーフエキスパート、図面公開と、条件は総て整っていたはずですが。

地元の人に『チーフエキスパートが傍にいたら何をしてるのか』と怒りとお叱りを受けるのは無理のない事です。このような結果に終り、責任の重大さを痛切に感じております。

私の進退はもちろんですが、次回迄に私がチーフとしてスイスで論じてきた改革を他のエキスパート達の理解がなければ、日左連としての参加について協議をしなければならないと思っております。

現在、この役目は私に適任だろうか「自責」と「自問」の毎日です。